資料２

第６回　西国分寺駅北口周辺まちづくり協議会

グランドデザイン検討図

目　次

1.　五十嵐良江委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・1

2.　坂本賢治委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・29

3.　中山勝博委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・32

4.　清原公美子委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・34

5.　小林利勝委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・35

6.　島田英之委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・36

7.　結城順子委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・38

8.　八木弘一委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・39

9.　藤原英作委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・46

10. 中西正彦委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・50

11. 星卓志委員のグランドデザイン検討図・・・・・・・・・・・・・・・・51

グランドデザイン検討図

第５回協議会では，将来のまちの構成要素のイメージをより具体的にする検討を行いました。

では，それらの要素が組み合わさった「将来のまちの全体的な姿」は，どのようになると思いますか？

例えば…
- ■広場はこの場所に，こんな形であると良い
- ■ここでは，こんな暮らし方をしている。こんな楽しみ方をしている。
- ■車の移動は，こうなっている。こんな散歩道ができている。

等々，西国分寺駅北口周辺地区の未来予想図を描いてみましょう！

氏名　五十嵐　良江　　締切日　7月6日（金）

着眼点

第５回協議会の資料３「将来のまちで実現していることのイメージ例」の中で，どれが重要だと思いましたか？（または「いいね！」と思いましたか？）
（例示以外でも重要と思うことがあればご記入ください。）

どれも重要だと思いますが、イメージ例の中で、といわれると、コレ！と決めるのが難しかったです。3ページの⑧⑨は、一刻も早くやるべきだと思いました。
地権者の方たちのことを考えると、南口のように駅の近くは商業を含めた高層住宅にして、少し離れたところは、中層、低層の住宅が作れるようにしていく事が、必要だと思います。そうする事によって安全で環境が良い街を作るための道路や空地（公園など）が、出来ると思いました。
道路整備は最重要課題です。道路の整備に関しては、早急に着手してほしいと思います。

テーマ

着眼点を踏まえて，何を重点に置いたグランドデザインとしましたか？
グランドデザインのテーマや，キャッチコピー等をご記入ください。

赤ちゃんからお年寄りまで、全ての人が、快適に暮らせる街、暮らしたい街
色々な世代の方が、「今日も幸せだなぁ！」と思いながら住んでいる街をイメージして書きました。
笑顔あふれる優しい街　～みんな仲良し～

ポイント

このグランドデザインのおすすめポイントを教えてください。

街の玄関となる駅前の活用方法。
素晴らしい図書館（公共施設）と、ついお散歩したくなるような日陰や腰掛ける場所のある緑地・緑道。

このまちは，何年後のまちですか？

5 ～ 20 年後のまち

JRに駅ビルを作ってもらう 吉祥寺のアトレ（昔のロンロン）みたいな感じで、色々な店舗が外に向かってもあるようなもの
北側の事を考えてもらって、出来れば、中層階までの建物にしてもらえると良い。

自由通路、広場
中央線にふたをしてもらい、上の部分を使わせてもらう。
人と緊急車両のみ通行可（自転車も降りてもらう）

駅から出てすぐの場所は、街の顔なので、他の駅にない様なものにしたい。

別紙あり

ロータリー（交通広場）　府中街道の高さ
バス、タクシー乗り場、機械式駐輪場（他より高額な利用料金）

ロータリー

地下1F　コインパーキング
（地下2F）　店舗
エレベーター

地下2F　備蓄庫
（地下3F）

駅前エリア

6F～25or35F　住宅

5F　医療モール
お店

4F　市役所（土・日・夜やっていて市民課など一部の課）
郵便局　・お店

3F　夜までやってる図書館（国分寺市内全部の返却も出来る）
お店　・保育園

2F　ちょっと高級な食堂
お店

1F
中庭風
バリアフリー（車イス・ベビーカーも楽に通れる広さ）
緑（落葉樹だけでなく冬でも緑のものも植える）のある、くつろげるスペース・腰掛けられるところを多めにつくる
ガラス張りのおしゃれな店舗
交番・都市銀行・甘味処・

地下1F　コンビニ、食堂・居酒屋・カフェ…
ここから上層階（住宅）へ直接行ける
JRの駅へはこの階から入る

地下2F　送迎の為の車両が入れる　タクシー乗り場（呼ぶ）
短時間の駐車場（送迎用）　エレベーター
入居者の駐車場

地下3F　備蓄庫・機械室（自家発電システム等）

主要道路は、完全に歩車分離とする。それによって歩行車の安全が守られる。(暴走車や勘違いの車などによる事故をなくす事が出来る。)

街道沿いの大型店舗・10階建て位の高層マンション
フードコートの充実した、ショッピングセンターのような物が出来てほしい。
(夜のフードコートは共働きの子連れ・学生・老夫婦にも人気で便利です)

④都市計画道路沿道エリア
- 地域の利便性を高める施設の立地誘導
- 魅力ある沿道のまちなみ形成
- 防火性の高い建築物の立地誘導による延焼遮断機能の向上

高級住宅エリア

隣の家との境には、塀や高い生け垣は作らない。
(アメリカ オークパーク他外国・日野 多摩平)

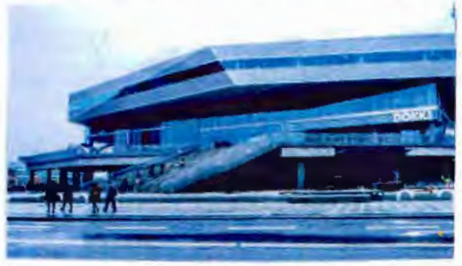
中層のマンションや建て物を建築出来る。屋上や空地の緑化推進をする。
公共施設や生活が便利になる施設を作る。
(駐車場・駐輪場・保育園・店舗・病院・企業

出来れば体育館をつくりたい

図書館

可能であれば小さい☆の場所

中心部分に子供から大人まで利用できる(したくなるような)大きな図書館を作る。色々な世代の方が沢山来てくれるようになる事で、ぶんバスなどの公共交通が充実する。それによって地区内の方たちが便利になる。(デンマーク 公立図書館 DOKK1)



木かげがあって、腰をかけるスペースが沢山ある(ベンチも広場も)
お散歩公園と校庭の変わりになる平らな広場。

車イスやベビーカーが通る道と土の道があって、トイレもきれいでバリアフリーになっていて、ペット禁止スペースがある
コインパーキングや駐輪場(有料でも良いかも)も整備されている。
(品川 シーズンテラス・習志野 奏の杜)

低層住宅エリア　3階建て位まで
戸建て、共同住宅など

・電柱、電線を可能な部分は全て地中化する
(場所によっては、高圧線が通っているので、移動してもらえるようであれば全域)

・地区全体をバリアフリー化する
(どこへでも行ける)

・自走式の駐輪場は、武蔵野線の下とか駅から3分位離れた場所にたっぷり作る。

喫煙スペースを何ヶ所も作り、歩きタバコはやめてもらう。
部屋になっていて、換気システムも付いている物にし、周辺の人に迷惑をかけない工夫をする。

屋内外対応 喫煙ブース

13年の議論で生まれた「驚異の図書館」の裏側

デンマークの人々の「共創」の技法

次ページ »

熊平 美香：未来教育会議　実行委員会代表 ／ 未来教育会議

2017年09月26日

一覧 コメント 4 B! 印刷 A A

2015年に誕生した公立図書館「DOKK1」（写真：未来教育会議）

地方創生や地域発のイノベーションが注目されるのに伴い、行政・自治体と民間企業やNPO、市民など、産官学民の垣根を超えた「共創」（1社・1組織単独ではなく、企業や組織の垣根を超えた多様なメンバーでアイデアや企画を創り出すこと）をどう起こしていくかについても、関心が集まりつつある。

成功する共創はどのように進められているのか。この記事では、デンマークの公共図書館や地方自治体・地方大学の取り組みをご紹介する。

人口30万人の街の図書館に、4カ月で50万人が来館

この連載の記事一覧はこちら

デンマーク第2の都市オーフス。生活・教育環境やインフラのICT化などで高い評価を得ており、先進的な「スマートシティ」として知られる都市だ。

そのオーフス市史上最大の建築プロジェクトとして2015年に誕生したのが公立図書館「DOKK1（ドック1）」。

オーフス市の人口は30万人だが、開館4カ月のあいだに50万人が来館。今でも1日約5000人の市民が訪れる人気のスポットとなっている。国際図書館連盟（IFLA）が2016年の「Public Library of the Year」に選出するなど、国際的にも高い評価を得ている。

このDOKK1はどのようにして生まれたのか。

DOKK1の設立以前から図書館運営に携わってきたロルフ館長は、「スマートデバイスの発達などで、2020年には図書館がなくなるだろうといわれていました。しかしデンマークにおける図書館は、民主主義教育の中心となってきた重要な場所。現代に合った図書館の存在意義を再定義すべきと考えました」と話す。

「デンマークの図書館の新しいスタンダードをつくろう」というロルフ館長のリーダーシップの下、子どもから大人まで地域の人々を巻き込み、新しい図書館を生み出すためのディスカッションやワークショップが繰り返された。

13年の議論で生まれた「驚異の図書館」の裏側

デンマークの人々の「共創」の技法

熊平 美香：未来教育会議　実行委員会代表 ／ 未来教育会議

2017年09月26日

たとえばSNS、テクノロジー、文学の3つの専門分野の大学生を招いて、若者が図書館に求めることを議論してもらう。
子どもたちには「未来の理想の図書館」を工作してもらい、そのアイデアを収集。実際の建設を請け負うためのコンペに参加する建設会社に、少なくともひとつは子どもたちのアイデアを建築に生かすことを義務づけた。

13年間の対話を通じて練り上げたアイデア

ロボット仕分けシステム（写真：未来教育会議）

こうした対話の中からさまざまなアイデアが生まれ、「スマートシティ」オーフス市の象徴となる施設とするべく、実際に機能として備わっている。

たとえば、オーフス自動貸し出し機・返却機、スマートフォンに合わせたオンライン予約システム、周辺地域にある18の図書館の蔵書のデータベース化などを実施。さらに、返却された書籍や他の図書館と送り合う書籍の仕分けに「ロボット仕分けシステム」を採用。また、100台収容の「自動駐車システム」を導入した駐車場を付設するなど、最新技術を生かしたスマート化・機械化が進められている。

また、「マッシュアップライブラリー」というアイデアが掲げられている。これは、本の貸し出し以外にも、パスポート申請などの行政サービスが受けられたり、ラボスペースでものづくりができたりするというものだ。

シアターやセミナールーム、ワークショップスペースでは、多種多様なイベントに参加したり、企画・開催したりもできる。

図書館がNPOなど外部組織とコラボレーションしながら提供する「宿題支援」「健康相談」「ビジネスサポート」などのサービスもある。また、屋上は洪水の際の避難場所として設計されるなど、地域住民・地域コミュニティが、さまざまな形でかかわる場としてデザインされている。

作業やディスカッションができるスペース（写真：未来教育会議）

さらに、「子どもたちのため、家族のための図書館」というアイデアからは、絵本と玩具が取りそろえられたキッズスペース、親子連れ同士でおしゃべりを楽しむことができ、赤ちゃんが泣き出しても安心な防音室、起業家プログラムなど子ども向けの体験プログラムが充実している。市内の病院で赤ちゃんが生まれたときには館内に鐘が鳴り響くというチャーミングな仕掛けも生まれた。

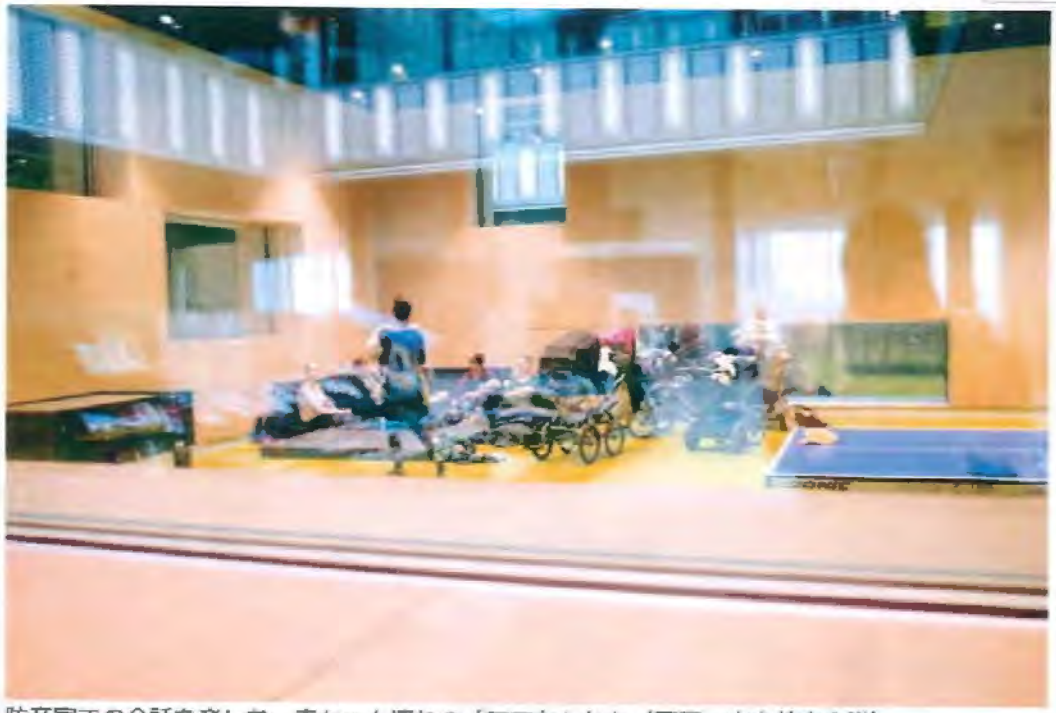
キッズスペースの一角（写真：未来教育会議）

13年の議論で生まれた「驚異の図書館」の裏側

デンマークの人々の「共創」の技法

熊平 美香：未来教育会議　実行委員会代表 ／ 未来教育会議

2017年09月26日



防音室での会話を楽しむ、赤ちゃん連れの「ママ友」たち（写真：未来教育会議）

DOKK1完成までに要した年月は実に17年。そのうち13年は、市民をはじめとするさまざまなステークホルダーとの対話と合意形成に費やされたという。

ロルフ館長と図書館のメンバーは、「現代に合った図書館の存在意義とは？」という、誰もが共有できるひとつの問いを掲げ、さまざまな人々を巻き込み、話し合いをした。「どんな図書館にしたらよいのか」というビジョンづくりと、それを実現するための具体的なアイデアのプロトタイピングを繰り返したのだ。

問いを立て、産官学民の枠を超えてさまざまな人々を巻き込み、ビジョンを共有して、アクションを起こしていく。そんな産官学民共創のもう一つの例として、同じデンマークから、北ユトランド地域／オールボー市の取り組みを紹介したい。

新生児の誕生を知らせる鐘（写真：未来教育会議）

造船の街から新エネルギーの街へ、街ぐるみでの挑戦

デンマーク、北ユトランド地域。オールボー市を行政府所在地とするこの地域は、かつて造船業で栄えたが、第2次世界大戦後は産業構造の変化によって衰退の一途をたどっていた。時代に応じたイノベーションを創出できる地域に転換するべく、地域ぐるみの取り組みが続けられている。

具体的には気候変動という領域に着目。「持続可能なエネルギーの創出」を軸に、地域全体の価値観共有・産業育成を行っている。

1992年から「Aalborg Climate plans」という研究活動をスタートさせ、2008年から2015年にかけて、「Aalborg Sustainability Strategy」「Alborg Climate Strategy」という戦略を策定。地域全体としてのビジョンを示しながら、「地域における熱利用（冷暖房）システム」や「風力発電とそのネットワーク化」という重点分野の研究やビジネス育成を進めている。

NOVIの外観（写真：未来教育会議）

こうした取り組みが欧州では評価され、2016年2月に発表されたEU全体の地域冷暖房に関する新戦略（EU Strategy on Heating and Cooling）は、「デンマークに学べ」という考え方で、オールボーの研究成果を基に策定されることとなった。

13年の議論で生まれた「驚異の図書館」の裏側

デンマークの人々の「共創」の技法

熊平 美香：未来教育会議　実行委員会代表 ／ 未来教育会議

2017年09月26日

ここでの共創は、どのような仕組みや施設を使って行われているのか。中心のひとつは、オールボー大学だ。約1万8000人の学生が通う、デンマーク国内に2つある工科大学のひとつである。

NOVIのエントランス（写真：未来教育会議）

研究者が地域の戦略にのっとった研究活動を進めていたり、学生が在学中から地元企業やNPOとの協働経験を積み、地域を担う人材として卒業していったりする。また、特筆すべきは、大学の研究者・学生と民間企業が集う「NOVI（北ユトランド・サイエンスパーク）」というビジネス・イノベーション開発拠点を擁していることだ。

地元企業はもちろんのこと、サムスンやノキアといったグローバル企業も研究拠点を置くこの施設を研究者や学生たちは、自由に活用することができる。彼らと企業が交流することが、大学の研究成果を産業界の価値に変える原動力になっている。専門の「マッチメイキング担当者」もいて、彼らが研究者・学生と企業とを積極的につないでいく。

優れたアイデアにはNOVI専属のベンチャーキャピタルから資金が提供される仕組みもつくられている。NOVIに所属する教授は、自分の時間の80%を起業活動にあて、20%を研究活動にあてるとされており、学生の起業支援も行う。

また、施設内には「グロースハウス（Growth House）」という公設のコンサルタントグループも入居している。小国であるデンマークでは、企業はつねにグローバル展開や輸出拡大を図らなければならないが、グロースハウスは商社などのグローバルビジネスの経験を持つ民間企業出身者や外務省の担当職員な

どが常駐する組織で、中小企業やスタートアップ企業に対し、海外進出に向けたコンサルティングや資金提供、ビジネス開発支援などを行っているのだ。人材獲得の支援なども合わせて展開。年間で600社もの企業を支援し、約500人の雇用創出や数十名の高学歴人材のマッチングを行っているという。

プロジェクトワークに勤しむ学生たち（写真：未来教育会議）

キーワード「クワトロ・ヘリックス（四重の螺旋）」

大学等、官、地元企業に関連してノキアやサムスンなどのグローバル企業も（写真：未来教育会議）

ビジョンや価値観を共有し、ひとつの未来に向けて、産官学民の各組織が互いのリソースやアイデア取り交わす――。そのようにして地域が新しいものを創出するキーワードとして、オールボー大学開発計画学部（Department of Development and Planning）のソーレン・ケンドロップ（Soeren Kemdrup）准教授は、「クワトロ・ヘリックス（Quadro-Helix）」という言葉を紹介してくれた。

直訳すると「四重の螺旋（らせん）」。産・官・学・民の4者が、共に問題解決にかかわり、共にイノベーションを起こしていくことを指す。単なる「連携」ではなく、「螺旋」というワードを使っているのがポイントだ。1つの中心を持ちながら、螺旋状に絡まり合って、1つの方向に前進・上昇していくイメージだろうか。

ソーレン准教授は「地域におけるイノベーションの創出においては『価値観の共有（Shared Value）』をどう構築し協働するかが成功のカギとなる」「何が共通のゴールなのかを意識することが重要」と語る。

「ただ企業が地域に来るだけでは意味がなく、自治体や市民とどのように関係性をつくるか」「行政・企業だけでなく、市民が参加することや子どもへの教育活動を行っていくことも極めて重要なのです」

この地域にどんな産業を育てるのか、この地域にどんな未来を描きたいか、ビジョンや価値観を産官学民で対話しながら共有し、そしてそれぞれの強みや個性を生かしてアクションを進めていく。そうすることで、地域の人々に支持され、世界からも評価される、ユニークな図書館や新たな政策・産業が生まれていく。デンマークの「クワトロ・ヘリックス」を意識したプロジェクトの進め方・働き方に、学ぶことは多いのではないだろうか。

前回の記事でオーフス観光について書いたが、その際訪れたオーフスの公共図書館であり、文化センターの役割も担う**Dokk1**という施設に感動したので、改めてこの記事で書くことにした。
Dokk1という名前は、Dokk1のある場所が急工業用港であることに由来し、公募によって決まった。竣工は2015年の最新の図書館だ。
こちらがDokk1の外観だが、ぱっと見図書館には見えない洗練された建築だ。

まずはざっくりと内観の写真。

ÅRHUS

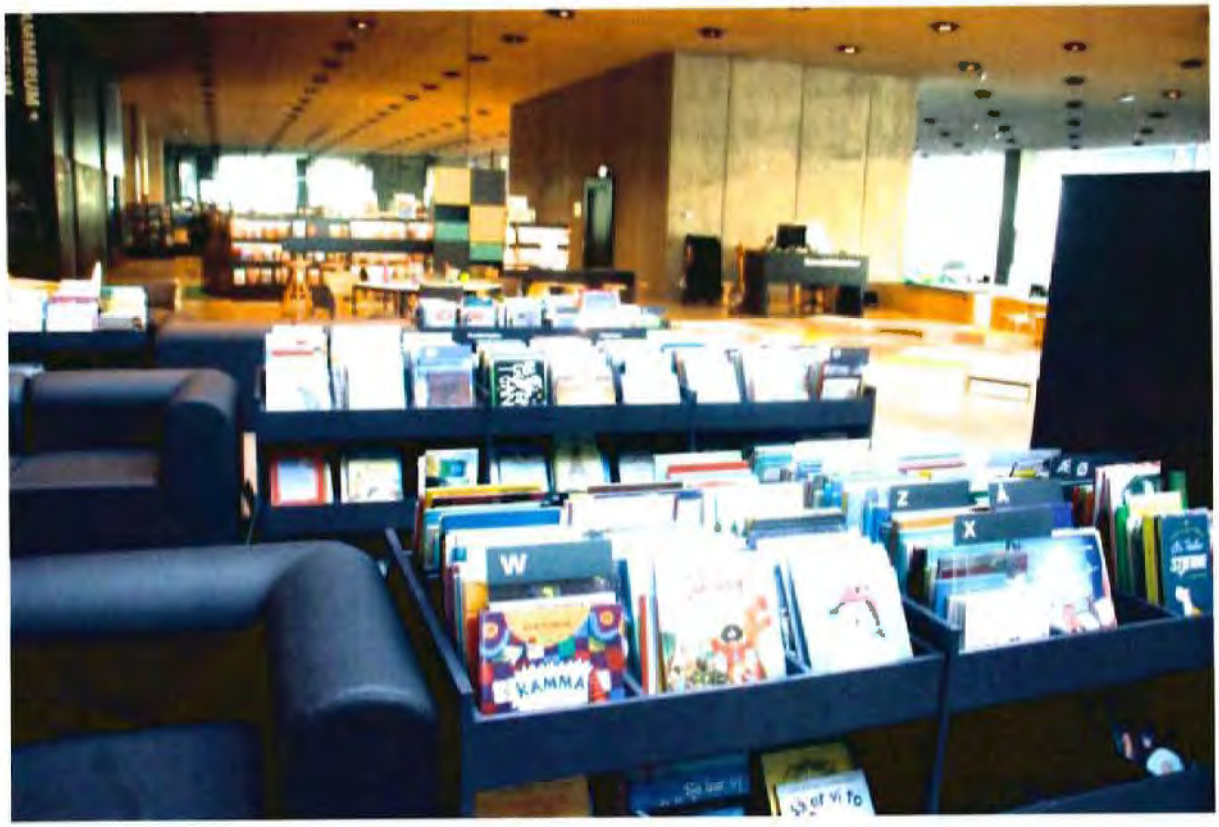
蔵書量は約400,000冊。
市内にはオーフス大学があるので、学生が多く、勉強するスペースやコンセント、Wi-Fiがものすごく充実している。
つまり、旅人にもめちゃめちゃ優しい場所だ。

ショッピングセンターやバスターミナルなど、人が集まる場所にトイレは完備されているのだが、小銭がないと入れない場合が多いが、ここはトイレも完全に無料で使えるのもありがたい。
ちなみにトイレ超綺麗。天井の色が変わる。

そして、前回の記事でオーフス大学に企業のオフィスが併設されていると書いたが、この図書館にも企業のオフィスがある。
奥のガラス張りの部分がオフィスだ。

僕がこの図書館で感動したのが、親子に優しい施設がたくさんあること。
それを少しずつ紹介していこう。

まずは、絵本と児童書の蔵書量が半端じゃない。
ここ以外にも、いくつか子ども向けの本のスペースが存在する。



そして、各国の絵本も数冊用意されている。

これ以外にもあと10ヶ国分くらいの絵本が常備されていて、ラインナップを見ると、デンマークに在住している人が多い国の絵本だということが分かる。
残念ながら日本の絵本はなかった。

ここは、右側の階段のようなところに親子が座り、親子向けのイベントができるスペース。

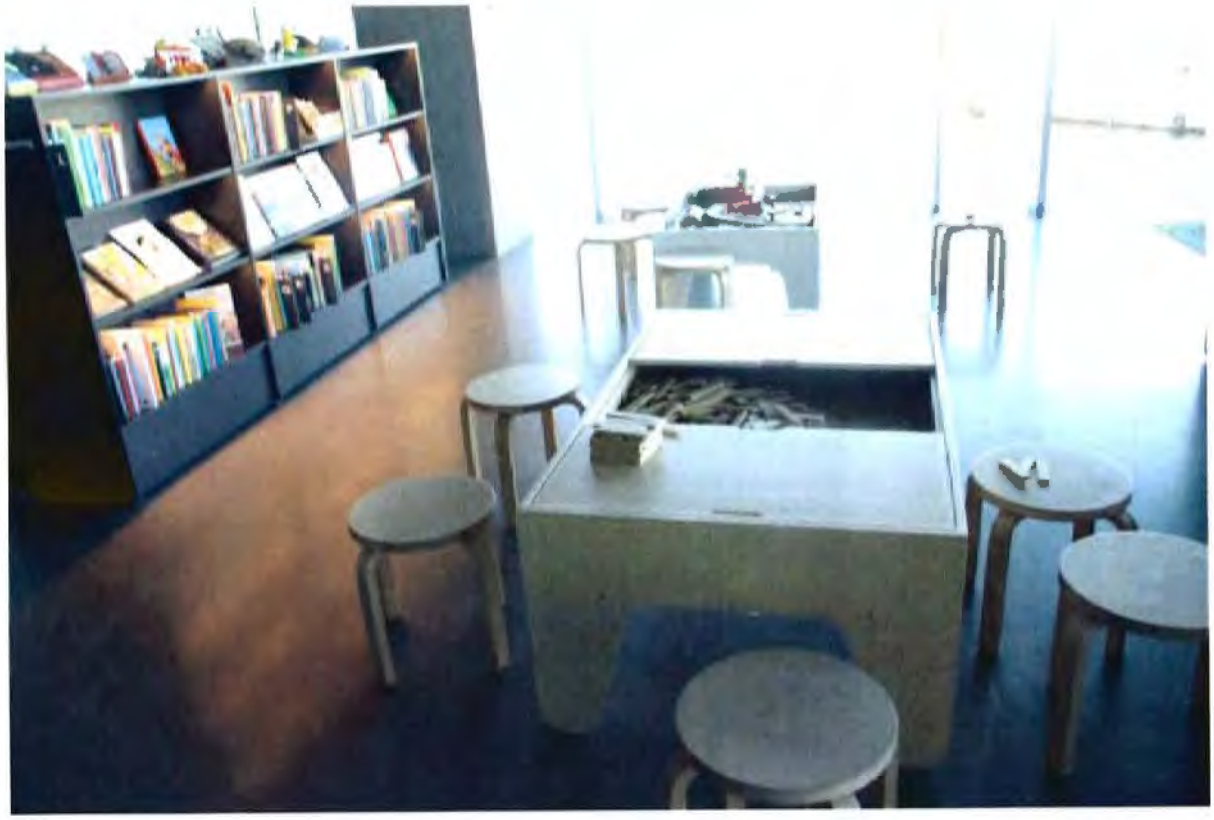
このガラス張りのスペースの中では、子ども達向けに制作などの教室が行われる。

ここで作られた子ども達の作品は、図書館内に飾られている。
これは、古本を子ども達がリメイクしたもの。めちゃくちゃかわいい。

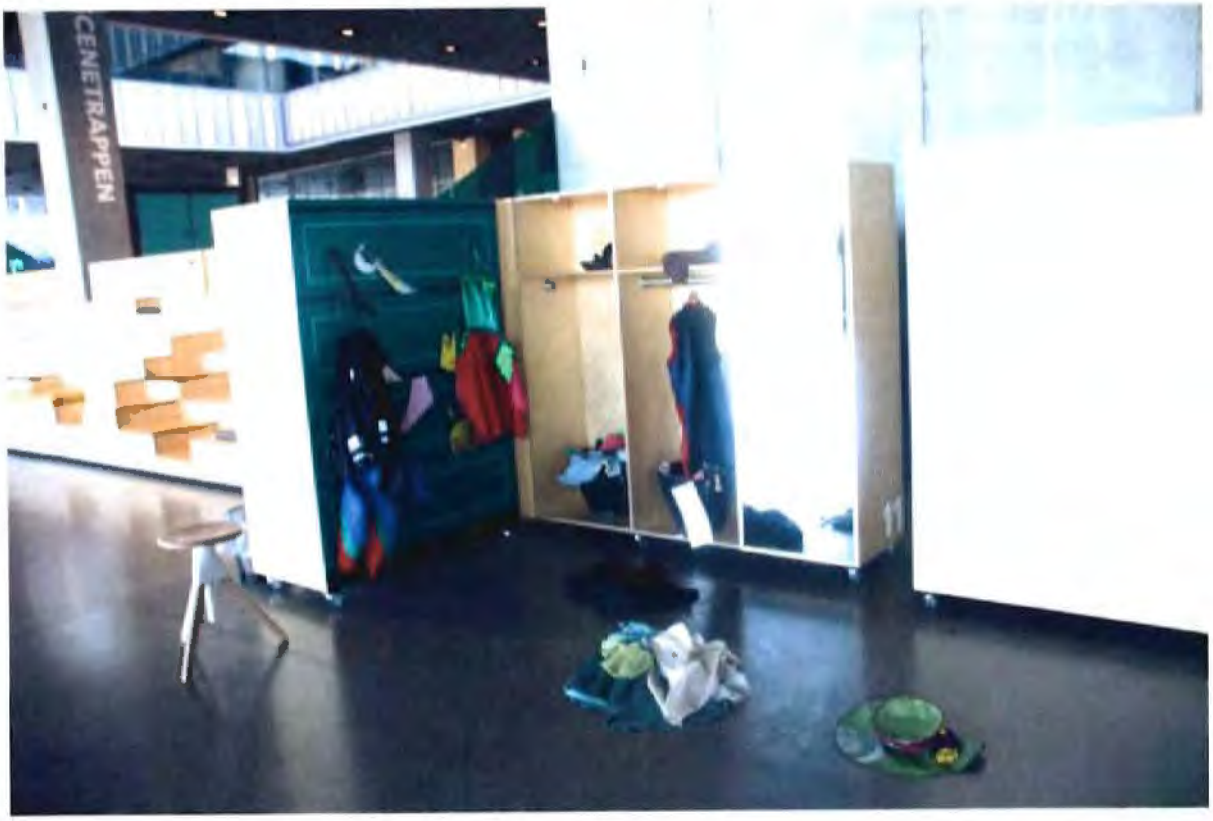
最後のぼけちゃってる。

その他にも至る所に子ども達の作品が飾られている。
これは、おそらくもっと小さい子ども達が作った作品だろう。基本の形は同じだが、色や柄がひとつひとつ違うのが素敵。

子ども達が遊ぶスペースやおもちゃもバリエーション豊かに用意されている。
ここは、絵本スペースの隣でブロックや積み木が用意されている。



ここは様々な衣装が用意されていて、子ども達は自由に着替えてごっこ遊びを楽しむことが出来る。



このスペースは他の場所と区切られているので、子ども達が思いっきり遊ぶことが出来る。しかも、保育士が常駐しているので、親は少しの間子どもをここに預けて、このスペースの外にあるソファでくつろいで自分の時間を過ごすことも出来る。

このように、透明で中が見えるようになっているので、ソファで座りながら自分の子どもの様子を確認することも出来るので安心だ。

もっと小さい乳児には、別に遊ぶスペースが用意されている。
ここには、保育士は常駐していないが、すぐそばにソファがあり、ここも親は少し休みつつ、子ども達を安心して遊ばせることが出来る。
昼間に来ると、結構人がいたので、地域内の親同士の交流にも一役買ってそうな場所だ。

ベビーカーも泊める場所がパーキングになっている。

ここには、電子レンジや水道などある程度の設備が整っているので、離乳食やミルクをここで作って、子ども達に食べさせることが出来る。

これは子ども達に大人気の装置。